



立志 鍛錬 協調

平成30年5月16日号

立三申

立川市立立川第三中学校
Tachikawa Daisan J.H. School

だより

自然や文化遺産から学ぶ

校長 山口真一

新緑がまぶしい季節となりました。4月27日には1年生の校外学習をあきる野市の伊奈キャンプ村にて実施しました。昨年の台風で川の様相は変わっていましたが、東京都とは思えない豊かな自然の中で、飯ごう炊さんに取り組みました。どの班も手際が良く、短時間でカレーやシチュー、焼き肉など多種多様なメニューに挑戦し、とてもおいしいものができました。実行委員や班長を中心としてよく話し合い、全員が協力した成果が表れていました。終わった後も綺麗に保たれており、自然を大切にすることも学べたと思います。

早いもので、今週の金曜日から修学旅行です。実行委員の頑張る姿や事前学習に熱心に取り組む姿を見ると、充実した3日間になることが期待できます。京都や奈良には世界に誇れる文化遺産が数多く残されています。法隆寺が建てられたのは1300年以上前であり、木造の建築物としては最も古い建物の一つです。その保存と維持には、修理の技術とそれを継承する人々が不可欠です。法隆寺の「昭和の大修理」や薬師寺の金堂・西塔などの再建を手掛けた宮大工・故西岡常一氏はその第一人者でした。西岡氏は昔からの技術を大切にして後継者を育て、文化遺産の保存に多大な貢献をしました。「建物は良い木ばかりでは建たない。右にねじれた部材と左にねじれた部材を組み合わせれば強靱な力が生まれる。法隆寺が千年の歴史を保っているのも、みなクセ木を上手に使って建築しているからである。」など、昔からの技術をしっかりと継承して修理等を手掛けていました。

法隆寺の五重塔は何百年の間に何度も地震に遭っているのに、一度も倒れたことはありません。これも木のクセを生かし組み合わせることで強固なものとなり、内部に「心柱」を入れることで、地震の揺れを吸収する「制震」構造になっているからだということが分かっています。この技術は東京スカイツリーなどの高層建築に使われています。1300年以上昔にこのような高度な技術があったことに驚かされます。修学旅行では、千数百年の歴史と伝統が受け継がれていることが様々な場所で感じ取ることができると思います。充実した3日間になることを期待します。